



私事ですが…

## 卒業式、挙行

週1回のバンちゃん保育室、終了

3月3日夕刻、箱根対岳荘の宴会場で、家族のための宴席が設けられた。主役は3歳の湊人くん。湊人くんは3年前に父母に連れられてベルリンから日本に戻ってきた。しばらくはジンちゃんバンちゃんの家同居していたが同年暮近く、祖母の家からほど近い場所に父母が居を構えたので、「新しいウチ」に移った。バンちゃんは、息子夫婦が子供と離れた時間を持てるよう、週1回、曜日を決めて午後には孫を預かることにした。最初は「孫の日」とか呼んでいたこの機会は、そのうち



お祝いプレゼント

即日合格となった。この時点で孫は2019年4月からは幼稚園児となることになった。こうなると、バンちゃん保育室も終了となる。

そこで、バンちゃんは一計を案じ、盛大な卒業式を挙行することにした。式次第を考え、卒業式会場を予約し、たった一人の卒業生の湊人くんを主役に、来賓はパパ、ママ、じいじ、ばあば、あいちちゃん（伯母）。ドレスコードは宿舎の浴衣と羽織と決めた。

3月3日、8人全員が浴衣で宿舎に集まった。ママ手作りの式次第ボードが、宴会テーブルの正面に据えられた。こうして宴会場での夕食が始まる直前、5分ほどの間に卒業式はおごそかに、晴れやかに挙行された。湊人くん、おめでとう！

(小川千代子=バンちゃん)

卒業式次第  
バンちゃん保育室  
二〇一九年三月三日 箱根 対岳荘  
(司会 ジンちゃん)

開会の辞 ジンちゃん  
一、卒業証書授与 バンちゃんと湊人  
一、祝辞 じいじとばあば  
一、お祝いプレゼント 🍡 パパ、ママ、愛ちゃん  
一、卒業生答辞 湊人  
(記念撮影)

開会の辞と「いただきます」  
以上で五分以内 一八時から夕食開始

【バンちゃん保育室】という名前になった。

孫が2歳ちょっとで始まったバンちゃん保育室は、断続的ながら16カ月継続した。孫はいつの間にか成長し、2018年11月、幼稚園の入園試験を「お受験」、



卒業式開会の辞に拍手

【既報 本誌 No. 115 巻末随想「バンちゃん保育室」】

### おもな内容

私事 卒業式挙行……………1  
消息……………2

DJIIレポート No. 116 20190430

やぶにらみ文献紹介……………3  
あしあと／活動／巻末随想 少女虐待死事件他……………4

◆◆◆アーキビストの消息(順不同)◆◆◆

4月1日付

- 全史料協会長事務局 寒川文書館(神奈川県)
- 相模原市公文書館長 谷 圭介氏(危機管理局長)
- 前田能成氏 岡山県立倉敷商業高等学校 (岡山県立記録資料館、全史料協会長事務局)
- 福島幸宏氏(東京大学大学院情報学環特任教授)

3月31日付退職

- 飯田生馬氏 相模原市公文書館長
- 大西 愛氏 大阪大学出版会
- 照沼康孝氏 文部科学省

訃報

●寺崎あき子氏 2018年10月28日永眠

大学のちょっと先輩で、不思議にご縁がある方でした。国会デモに行こうとしたら、途中のテント小屋にいらして、旧交温めたり、もっと前には赤坂見附駅近くの蕎麦屋でばったり出会い、「あらー！私今日で退職なのよー！」と伺い奇遇に驚いたり。亡くなったことも、FBでご著書(右)を拝見して初めて知りました。合掌。



●石川雅明氏 2018年12月19日逝去

2018.12月号 No.6/5

石川さん送く 石川雅明さんへの献句

2018.12.19 懇話会の参加者に献句をいただいた。

石川さんへ感謝してもしきれません  
シソジュース 断ることがもう出来ず  
おさんぽで、おいしいクレソン 食べました  
あの世では風呂に入ろう石川氏  
石川の空にあなたの星灯り  
国会の図書館よりもみんなの心のライブラリー  
繋がりをつくって来ておきかえ！  
死ぬ死ぬと言っていたが早すぎる…  
クレソンのかおりするたび思い出す(だらう)  
石川さん ありがとうがどう ありがとう  
先駆ける道平ばなり巨星落つ

山口 紅茶好き  
KUMAKU  
E. 土の音  
備後  
土の音  
A. 土の音  
アロハ屋のナラ  
田代敦彦  
吉田  
白山未知子  
岡立東彦

石川雅明さんの紹介 / 金沢の市民運動に大きな足跡を残している。東大空の佐藤優氏は旧知の仲。長年フリースクールを運営し、青年への独特の塾も主宰。町づくりや商店街再興にも尽力。石川県立公文書館建設を長年訴えてきた。彼は新設する県立図書館に公文書館並立を決めた。彼の大きな実績の一つである。激闘トパルボンパーズの

併優でもある。ささやかな骨髄げっ子どもを抱いた女性が「石川さんの会報を説くのも彼の楽しみだった。山菜採りが楽しい思い出」享年七〇歳。(岡立東彦・渡辺寛)

石川さん、3年前、生前葬をやってくれと頼ん

【凡例：●個人■機関】

石川県公文書館期成同盟の活動家として存じ上げていた方。全史料協大会ではいつもお目にかかっていたのだが、昨年はお見かけしないと思っていたら、思わぬつながりの方を通じて訃に接した。ご冥福をお祈り申し上げます。

●大濱徹也氏



筑波大名誉教授、日本近代史

2019年2月9日午後11時56分、札幌市内の自宅で死去、81歳。山口県出身。葬儀は2月13日午前10時半から札幌市中央区北1条東1の3、日本基督教団札幌教会で。喪主は妻良代(ながよ)さん。後日、東京都内でお別れの会を開く予定。著書に「明治キリスト教会史の研究」など。(共同通信社)

藤女子大学在職中、札幌では何度かお目にかかる機会があり、いつもハッパをかけていただいた。年明けには寒中見舞いのお便りをいただき、折あれば再会を、と心ひそかに考えていたところに突然届いた訃報。ご冥福をお祈り申し上げます。

【追記】4月3日の偲ぶ会に参列させていただいた。お人柄に誰もが懐かしみ、元気づけられていたことを改めて知った。参列者の中に幾多の旧知の顔触れをみつけ、この機会に見えたことへの感謝を新たにした。それにしても、4月というのにひどく風が冷たい花冷えの日であった。



庭の菜の花 2019.4.25 撮影

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。(ち)

## ●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

～～フェースブック情報も含めご紹介します～～

■フェースブック切抜き「命のビザ」植林が消失＝杉原千畝記念碑も所在不明－イスラエル 2019年2月13日 07:02

【エルサレム時事】第2次大戦中に「命のビザ」でユダヤ人数千人を救った外交官杉原千畝（1900～86年）を顕彰し、イスラエル中部で植林された松など400本の少なくとも一部が消失し、現地に建立された記念碑も撤去され、所在不明になっていることが12日分かった。複数の関係者が明らかにした。伐採された可能性が高い。

ナチス・ドイツの迫害からユダヤ人を救った杉原千畝はイスラエルで英雄視され、85年にイスラエル政府から「ヤド・バシテム（諸国民の中の正義の人）賞」を贈られた。中部ベトシェメシュ近郊で同年に行われた植林には、ビザ発給で一命を取り留めた人々やその親族が参加。植林支援のため、日本から寄付金も贈られた。

植えられた木はその後、周辺の樹木と区別がつかないほどに大きく成長したが、15年ほど前の宅地造成工事に伴い、少なくとも一部が伐採されたとみられる。杉原の業績と植樹に関する説明を記していた石の記念碑もその際、破壊された可能性があるという。

国土の多くが砂漠で、植林を重視するイスラエルで記念樹が伐採されるのは異例だ。植林を管轄する準政府機関ユダヤ民族基金は先月、実態解明に向けた調査を開始した。

85年、当時病床にあった杉原千畝に代わり、ベトシェメシュでの植林記念式典に参加した四男伸生さん（70）＝ベルギー在住＝は「植林には人間の命がこもった木を皆で植えたという意味があった。後世への希望が刈り取られ、記念碑が捨てられてしまったのが悲しい」と落胆している。イスラエル国内外のユダヤ人社会からも、木や記念碑を守れなかったことに強い批判の声が出そうだ。

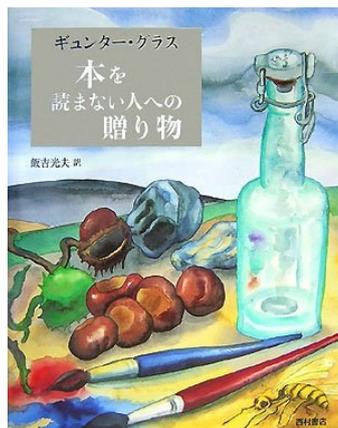
（筆者の感想：記念碑や記念物は、その背景情報が時と共に忘れられると、存在意義が理解されなくなる。そして撤去されるのは、時の流れの中ではありがちかとも思う。）

●ギンター・グラス、飯吉光夫訳『本を読まない人への贈り物』

これ、大人のための絵本であり手書き文字読解テキストでもある。近隣の図書館のインターネットで目録から予約して、取りに行った。そうしたら子供の絵本『ぐりとぐら』のような判型で、その厚さは優に3センチ位、ハードカバーという、ずば抜けた大型本が提供された。「わっ、大きい」と思わず声を上げた。図書館の担当者は「大丈夫ですか？持てますか？」と心配してくれた。勿論、大丈夫だったけど、その物量に非常に驚かされた。

この本を読もうと思った理由は、本を読まない自分のために、そして訳者飯吉光夫氏が、大学紛争直前のころに独文の授業でお世話になっ

わば恩師だからと、内容とはおよそ関係の薄いところにある。授業の時に「昨夜は徹夜だった」といいながら、髪の毛をボサボサとひっかいていた飯吉先生の姿ばかりが目につく。戦後の荒廃したドイツの心象風景を描いた詩の翻訳が授業の内容だったと記憶する。残念ながら、およそ精神的にそうした内容には共感できなかった20歳の頃の自分の姿も一緒になんとなく見えてくる。それでも学校時代が懐かしくなってきた。トシだな。西村書店 2007 大型本 250頁 5940円(税込)



●パウル・ツェラン『誰でもないものの薔薇』

本書は飯吉光夫訳であるからこそ、紹介することにした一冊。ドイツ語原題は Niemandrose (ニーマントローゼ)だ。学生時代、飯吉先生は、このニーマントローゼの詩をドイツ語で読み、それを日本語に直すという作業を授業の中でやっておられた。ニーマントローゼの詩が描く世界は当時20歳そこそこの筆者にはわけがわからなかった。作者の焦燥感のようなものだけは、何とか捉えることができたような気がしたが、その暗さ、絶望感に触れることが、当時はピチピチ女学生だった筆者には耐えられなかった。飯吉先生は、このニーマントローゼを授業の準備のため徹夜で翻訳してくださったのだろうが…。今それが『誰でもないものの薔薇』という一冊で再会できたことで、ドイツ語を勉強していた頃のことを思い出すことができた。70年大学紛争ぼっ発直前の息苦しいキャンパスの雰囲気も。



静地社、2007、2700円(込)

●飯吉光夫『パウル・ツェラン ことばの光跡』

私が大学生時代その警咳に接したことがある飯吉先生の著作ということで、読んでみたくなった。で、図書館から借り出したのだが、どうしたことかその図書館の本を紛失してしまった。読みたいと思った本を紛失するなんて、しかも図書館の本を紛失するなんて…。やむなくアマゾンで入手、図書館に弁償した。図書館に届けるまえに、努力して読んだ。ツェランに傾倒する飯吉先生という人物像を求め、50年前の記憶を掘り起こしつつ。ツェランは1970年セーヌ川で自死したが、飯吉先生は今もご健在と知り、少しほっとした。(ち)

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJI レポート No.116 20190430 2019年4月30日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 [www.djichiyoko.com](http://www.djichiyoko.com)  
▼全史料協会報 No.105 2019.3 研修D アーキビストと人権保護—ICA 文書「人権保護のためのアーキビスト及び文書担当者の役割に関する基本原則を考える」—研修会記録 p.50-54; 会員表彰受賞者コメント p.59

◆レコード・マネジメント No.76 研究プロジェクト経過報告「記録管理学体系化に関する研究(その2)」2018.12  
▼学報 No.66 平成31年4月1日 東京雑学大学講義要旨 第1158回 公文書管理とアーカイブ 東京雑学大学

DJI国際資料研究所の主な活動 2019年1月1日~2019年4月25日

<出講>

1月15,22,29日 2月5日 博物館資料保存論,東京学芸大学

<見学>

2月15日 岡山県立記録資料館 岡山県  
2月21日 藤女子大学新校舎,札幌  
2月28日 寒川文書館,神奈川県  
3月12日 松本市文書館,長野県  
3月28日 相模原市公文書館,神奈川県

<参加>

1月26日 辻堂東海岸3丁目町内会新年会  
2月15日 全史料協役員会,岡山県立記録資料館  
2月21日 雛の会 札幌  
2月23日 辻堂東海岸3丁目町内会役員会  
2月28日 寒川文書館運営審議会,神奈川県  
3月9日 千種台39会 湘南倶楽部,東京  
3月12日 松本市文書館運営協議会,長野県  
3月18日 野田市立南部小学校卒業式,千葉県(飛行機の孫)  
3月18日 KDDI 財団設立20周年記念式典  
3月19日 小川千代子卒業式 by 中央大学非常勤講師会  
3月23日 辻堂東海岸3丁目町内会役員会,茅煮会  
3月25日 恵子先生と「エキズ」昼食会 茅ヶ崎  
4月3日 大濱徹也先生を偲ぶ会 女子学院講堂東京 2面掲載

4月23日 図書館ネットフォーラム表彰式,日本教育会館,東京 <主催>

2月23日 豚汁炊出しパーティ 国際資料研究所  
2月5日,3月5日,4月4日 記録管理学会研究プロジェクト「記録管理学体系化」第2,3,4回打合せ研究会 東京学芸大学  
3月3日 バンちゃん保育室卒業式,箱根対岳荘【1面】 <その他>

1月-3月 毎週右肩リハビリ,マリソル整形外科,藤沢  
1月-2月 毎週水曜日午後【バンちゃん保育室】マゴとの時間,辻堂東海岸,藤沢,神奈川県  
2月23日 エマさんと札幌~千歳電車旅 北海道  
3月6日 コミュニティだより印刷 市民活動推進センター  
3月8-10日,18-20日 雄二郎徳洲会病院入院治療  
3月19日 モンセラート来日歓迎会 (株)カネカ表敬と日本の居酒屋探訪,六本木+有楽町,東京  
4月16日 サキさんと「私の視点」打合せ 辻堂プロント  
4月24日 町内会総会資料印刷 市民活動推進センター  
4月25日 東京都公文書館打合せ訪問  
・「現代の図書館」1月22日入稿 4月15日初校確認  
・仮称『公文書~アーカイブ』4月18日初校確認  
・記録管理学会大会発表レジュメ2件 4月22日入稿

信頼をいとも簡単に裏切る大人たちの存在は、この社会の深刻な問題を形成している。今やウソツキ政治家ばかりがのさばる日本社会では、子供の健やかな成長を願うことも難しくなってきたように思う。

■巻末随想 (2) バンちゃん保育室卒業式

【本誌1面既報】3月3日,間もなく幼稚園に入園する3歳半の孫のために,バンちゃん保育室卒業式を挙行した。行事らしく式次第を作り,卒業証書授与,ジジババ4人が顔をそろえて,「おめでとう」と祝辞を述べ,孫はしっかりと「ありがとうございます」と答辞。記憶に残るかな。

■巻末随想 (3) 飛行機の孫,卒業

3月中旬,ラインに連絡が入った。「飛行機の孫」の小学校卒業式が18日にあるという。これはよい機会だから参加することにした。孫とは2008年に飛行機の中で初対面。まだ赤ちゃんだった。お母さんが連絡を取ってくれるので,以来毎年行き来している。飛行機で知り合ったから私は飛行機のおばあちゃん。時々お手紙をもらうこともある。これがまたうれしい。孫はいつの間にか私よりずっと背が高くなってしまった。実は飛行機の孫は3人いる。一番上の孫はこの春から高校生,一番下の孫は小学校3年生。飛行機で隣り合って座ったご縁がこんなに長く楽しく続いているのは,なんとありがたいことだろう。「飛行機のおばあちゃん」業,ずっと続きますように。(ち)

■巻末随想 (1) 野田少女虐待死事件  
野田市に住むミアちゃんが,父親の暴力で亡くなったというニュースは,あまりにも悲しい。父親の暴力虐待を学校の先生に訴え,一度は親許を離れていたのに,ミアちゃんを本来なら守るべき周辺の大人たちの無神経な振舞の結果,再び父親のもとに引き戻され,さらなる虐待の結果,命まで奪われてしまった。親には見せない約束でミアちゃんが書いたsosのアンケートを見せるように迫った父親の威圧的な態度に負けて教育委員会がコピーを渡してしまったという。なんとということだろう。

筆者には,忘れがたい記憶がある。小学校入学間もない母の日のころ,母に関する作文を書かされた。何を書いても親には見せない,と担任の教師は私たち一年生に約束した。私は母に対する批判的な思いをその作文に書いたのは,教師のその言葉を信じたからだ。しかし,教師は母に渡しの作文を見せてしまった。大人は信用してはいけない,偉そうなことをいう人ほど,アブナイ。これが教訓だった。ミアちゃんの事件は私の遠い昔の苦くて恐ろしい経験がより危険な形になったものである。虐待する父親の下で,ミアちゃんはどんなに深く絶望していたのだろうか。私にはこの事件が他人事とは思えない。哀しみと絶望と,不信感と,...。相手が子供だから,相手がXXだから,と自分とひきくらべて相手を軽んじてしまう,他者の尊厳と

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 ㊟ ←電子バージョンのマーク! ISSN 1342-632X

DJIレポート DJIホームページ <http://www.djichiyoko.com> No. 116 20190430

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International Email: [djiarchiv@yahoo.co.jp](mailto:djiarchiv@yahoo.co.jp) 代表 小川 千代子  
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 phone 0466-31-5061 fax 0466-33-8535